

数回にわたって、私の産業カウンセラー・キャリアコンサルタントとしての生き様について述べさせていたくださることをお許し願いたい。

私のカウンセラーとしての仕事のスタートは、企業の中

ナビゲーター

での転職支援の仕事（いわゆるリストラ）で始まった。その仕事に就いた1995年当時、私の勤務していた重厚長大産業は、バブル崩壊で売り上げが減速、中高年を中心に余剰人員があふれた。企業グループ内の出向・転籍では転職先が不足し資本関係の全く

理論と実践 産業カウンセリング 私の実践

◆ 47

ない転職先企業まで探さなければならぬ状況であった。私はその転職先を探る責任者として、2002年まで7年間、従業員の転職活動を行った。

当時、たまたまある会合で出会った人から「産業カウンセラー」という専門職の存在を聞き、「これは、今の私の仕事に関係があるのではないか」と直感、早速「日本産業カウンセラー協会中部支部」に資格取得のための研修を申し込んだ。申し込んだのが3月末（当時は産業カウンセラ

産業カウンセラーとの出会い (1)

研修のスタートは4月で年1回だけ、現在は年に数回）で、当時「産業カウンセラー」の講座はとても人気があり、定員をすでにオーバーしていた。「どうしても受講したい」と強引に当時の事務局長にお願いし受講することができたのはまことにラッキーであった。

私は採用・教育・勤怠・安全衛生など人事労務の仕事は本社や工場で経験済みであり、社会保険労務士の資格を保有、リストラ対象者との面談でカウンセラーらしきこ

とは職場で曲がりなりにもやっていたので、資格取得試験は幸いにもパスすることができた。ちょうど私が受講している時に、毎年実施される「日本産業カウンセラー協会全国大会」が愛知県で開催され、全国から多くの産業カウンセラーが集まった。その時に、「産業カウンセラー

という資格を持っている人が世の中にこんなにいるんだ」、「カウンセリングの勉強は私の仕事に役立つ」と新鮮に感じたのを今でも覚えて

2002年、私が55歳になった時に、55歳までに外に出るといふ会社の人事慣例により、私自身が他企業等に出向することになった。実は、私は在職中、「財団法人産業雇用安定センター愛知事務所（以下センターという）」という組織を使って転職支援をしていた。センターは19

85年に官民合同で出来た厚生労働省の特殊法人で、資本関係のない企業間の従業員の出向や転籍を行なう機関で、「失業を防止する」が

数十人出向していた。仕事内容は承知していたので私はセンターに出向したいと会社に願ひ出た。会社がまだ中高年の転職活動を進めており、私がセンターに行けば会社の転職活動がさらに円滑に進むと人事部に説明した。そんな時に、私の働いていた会社にセンターから、県内の労働移動に携わる「出向社員」の求人依頼があり、私が出向することになった。センターからの求人は、まことにグッド・タイミングであったと言え

る。 【社会保険労務士・中小企業診断士・産業カウンセラー 杉本和夫】

「がうたい文句であった。事務所が全都道府県に設置、民間の大企業各社から50歳代以上の中高年齢者が、県の規模に応じて数人から

（火曜日に掲載）

偶然というチャンスを生かす

